

泌尿器科

腫瘍性疾患を主体に、全ての臓器、疾患に対する治療を積極的に行っている。低侵襲治療が手術における大きなテーマであり、平成 25 年より行っているロボット支援前立腺摘除術は 240 例以上の執刀件数となった。修復しうる直腸損傷の 1 例以外、重篤な合併症は発生しておらず、高リスクの前立腺癌症例に対しては拡大領域でのリンパ節郭清を併施、正確な病期診断と、微小転移病変の摘出による予後改善に努めている。逆に低～中リスク、若年の症例については、男性機能温存の術式に積極的に取り組んでいる。平成 28 年からは小径腎癌に対するロボット支援腎部分切除術も開始しており、現在までに約 100 例以上の手術を重大なトラブルなく実施した。腎部分切除術にロボット支援手技を取り入れることで、より精密かつスピーディな腎実質切除が行えるようになり、腎機能温存、制癌性、合併症の点で多くのメリットを享受できている。令和 4 年からは腎盂尿管移行部狭窄症に対するロボット支援腎盂形成術、腎細胞癌、腎盂尿管癌に対するロボット支援腎摘除術、腎尿管全摘除術も実施可能となっており、平成 7 年度からはロボット支援膀胱全摘術も導入する予定である。

腎、副腎における、その他の良性悪性疾患に対しても積極的に体腔鏡（腹腔鏡、後腹膜鏡）手術を採用しており、現在腎摘除術、副腎摘除術、腎尿管全摘除術の 9 割以上が体腔鏡のアプローチとなった。大径の腎悪性腫瘍、広範囲のリンパ節郭清を要する腎盂尿管癌に対しては安全性、制癌性を重視し、開腹手術ないしロボット支援手術を実施している。

悪性腫瘍の長期手術成績については、平成 2 年以降の腎癌・腎盂尿管癌・膀胱癌・前立腺癌・精巣癌に対する術後遠隔成績(5 年生存率)を集計し、ホームページに開示している。

高齢者の排尿障害の大きな原因の一つである前立腺肥大症に対し、低侵襲な手術治療として平成 28 年にグリーンライトレーザーを用いた経尿道的前立腺蒸散術（PVP）を導入したが、今年度、より蒸散力の強い接触式前立腺蒸散術（CVP）に機器を更新した。高度な腫大を示す前立腺肥大症に対しては、引き続きホルミウムレーザーを使用した経尿道的前立腺核出術（HoLEP）を実施している。CVP はレーザーの特性により出血が抑制できるのが特徴であり、全身状態の不良な患者や抗凝固剤使用中の患者でも比較的安全に手術を行うことができる。一方 HoLEP は肥大した腺腫の除去効率に優れ、再発の少ない良好な術後排尿機能を得ることが出来る。

投薬治療に抵抗する難治性過活動膀胱に対する外科的治療として、平成 29 年より仙骨神経を刺激する電極の埋め込み手術（SNM）、令和 2 年度からは、より侵襲の少ないボツリヌストキシンの膀胱内注入療法を開始した。QOL への影響が強い本疾患に対し、効果的な治療をより多くの患者に提供できるようになることが期待される。

a. 体制

スタッフ

令和 6 年度はスタッフの異動はなく、令和 5 年と同様、主任部長 1 名、部長 1 名、医員 2 名、後期研修医 1 名の計 5 名の体制で診療に従事している。

氏名	役職
岡田 卓也	(主任部長)
宗田 武	(部長)
牧田 哲幸	(医員)
大塚 修平	(医員)
山内 智瑛	(後期研修医)

b. 診療実績

総外来患者数	13,856 人（令和 5 年度 13,732 人）
総新規入院患者数	560 人（令和 5 年度 595 人）
総手術件数	487 件（令和 5 年度 539 件）

日本泌尿器科学会専門医教育施設（認定施設番号 860497）
 京都大学広域連携専門研修プログラム連携施設
 兵庫医科大学泌尿器科専門研修プログラム連携施設
 紀州伊勢泌尿器科研修プログラム連携施設

カテゴリ	手術名	件数	(うち体腔鏡下)
副腎	副腎摘除術	3	(3)
腎	腎摘除術 腎部分切除術 経皮的腎瘻増設 経皮的尿路結石除去術 その他 生体腎移植術 移植腎用腎採取術	6 12 1 1 4	(6) (ロボット支援 12)
腎盂・尿管	腎尿管全摘術 腎盂形成術 経尿道的尿路結石除去術 経尿道的尿管ステント留置術 尿管ステント交換術 尿管鏡 その他	12 3 59 54 101 12 11	(体腔鏡 8 ロボット 3) (ロボット支援 3)
腹壁	CAPD カテーテル留置術 CAPD カテーテル抜去術 尿膜管摘出術	2 4 3	(2)
後腹膜	後腹膜腫瘍切除術 骨盤リンパ節廓清術	1 1	
膀胱	経尿道的膀胱腫瘍切除術 膀胱全摘術、尿路変更 経尿道的膀胱結石除去術 内視鏡的止血術 膀胱水压拡張術 その他	82 2 6 5 1 2	
前立腺	ロボット支援前立腺全摘術 経尿道的前立腺レーザー手術 (PVP, HoLEP) 経尿道的前立腺手術 (TUR-P) 経会陰式前立腺生検 経直腸的前立腺生検	33 21 2 10 115	(ロボット支援 33)

	その他	1	
尿道	尿道カルンクル切除術 その他	2 3	
陰茎・陰 囊	環状切除術・背面切開術 陰嚢水腫根治術	4 5	
精巣	(精索捻転症) 精巣固定術 精巣摘出術 低位結紮術	1 5 2	
その他		10	
合計		487	70 (腹腔鏡 19, ロボット支援 51)

(経直腸的前立腺生検を除く)

c. 学会・講演・著作その他の研究活動

【学会】

- 岡田卓也 当院泌尿器科外来における夜間頻尿診療状況の検討 第74回日本泌尿器科学会中部総会 2024/11/21-11/23(石川県立音楽堂)
- 宗田武 Treatment patterns and predictive factors for persistence and failure in men with LUTS/BPH 第111回日本泌尿器科学会総会 2024/4/25-4/24(パシフィコ横浜)
- 宗田武 BPHの薬物治療にOAB治療薬を併用した際の尿閉リスクの実臨床における検討 第31回日本排尿機能学会 2024/9/5-9/7(ビッグパレット福島)
- 宗田武 前立腺全摘除術における拡大リンパ節郭清の治療効果 第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会 2024/11/28-11/30(幕張メッセ)
- 牧田哲幸 ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術におけるperinephric toxic fatの検討 第74回日本泌尿器科学会中部総会 2024/11/21-11/23(石川県立音楽堂)
- 大塚光 筋層非浸潤性膀胱癌の腫瘍位置と再発に関する検討 第74回日本泌尿器科学会中部総会 2024/11/21-11/23(石川県立音楽堂)
- 大塚光 ロボット支援前立腺全摘除におけるtime from PSA rising to prostatectomyと術後再発に関する検討 第17回日本ロボット外科学会学術集会 2025/3/7-3/8(ライトキューブ宇都宮)

【研究】

- 尿路上皮癌に対する免疫チェックポイント阻害薬治療の多施設共同観察研究
(岡田卓也、宗田 武、小池修平、大塚 光、西崎広典)
- ホルモン感受性転移性前立腺癌の治療実態に関する前向き研究
(岡田卓也、宗田 武、小池修平、大塚 光、西崎広典)
- 前立腺がんに対するロボット支援根治的前立腺全摘術の多機関共同観察研究
(岡田卓也、宗田 武、小池修平、大塚 光、西崎広典)
- 切除不能尿路上皮癌の治療に関する他機関共同観察研究
(小池修平、岡田卓也、宗田 武、大塚 光、西崎広典)

- 5 ロボット支援前立腺全摘術後の尿路症状の検討
(宗田 武、小池修平、大塚 光、西崎広典、岡田卓也)
- 6 前立腺肥大症に対する治療状況の検討
(宗田 武、岡田卓也、小池修平、大塚 光、西崎広典)

【論文】

(原著論文)

- 1 Soda T*, ..., Okada T. Baseline factors and surgical procedures affecting changes in lower urinary tract symptoms after robot-assisted radical prostatectomy: the impact of nerve-sparing. *Int Urol Nephrol*. 2024 Mar;56(3):989-997. doi: 10.1007/s11255-023-03859-9. (査読有り)
- 2 Kubota M, ..., Soda T, ..., Goto T*. Effects of thienopyridine class antiplatelets on bleeding outcomes following robot-assisted radical prostatectomy. *Sci Rep*. 2024 Mar 11;14(1):5847. doi: 10.1038/s41598-024-56570-9. (査読有り)
- 3 Kita Y, Otsuka H, ..., Kobayashi T*. Real-world sequential treatment patterns and clinical outcomes among patients with advanced urothelial carcinoma in Japan. *Int J Urol*, 31(5): 552-559, 2024. (査読有り)
- 4 Kita Y, ..., Otsuka H, ..., Kobayashi T*. Incidence, risk factors, and clinical implications of enfortumab vedotin-related cutaneous toxicity in urothelial carcinoma: a large-scale, real-world study in Japan, *ESMO Real World Data and Digital Oncology*. Doi.org/10.1016/j.esmorw.2024.100094. (査読有り)